

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲げてあり、職員間の共有はできている。意識付けや日々のサービスの提供において反映されていない事実がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回の推進委員会に民生委員と町会長に出席して頂き情報交換をし、町会の行事にも参加できるよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	鞍月公園には、金沢苑にAED設置の案内がある。また、施設見学は歓迎している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、民生委員や地域包括、家族様や利用者様の参加にて意見交換、情報交換している。頂いた意見はサービスの向上のために活かすよう努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて参加された方々からの意見やご指導などを日々のケアサービスに取り入れて協力関係を築くよう努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室窓、ベランダ窓等のフロア窓は施錠している。ユニット出入口に関しては、時間を決めて開放している。その他の身体拘束に関しては今日迄行なわれていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で学習する機会を設けていない。入居者の身体面、精神面の状態を把握し、職員間の情報交換を行い、話し合いの場を持ち、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で学習する機会を設けていないが、随時、研修に参加しており、個々に必要性があった場合、話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営者と管理者が中心となり、利用契約書や重要事項説明書に基き、一例を用いたり十分な説明を行い、納得・理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、自由に要望などが伝わるようにしたり、推進会議への参加の声掛けをさせていただき、その場で利用者やご家族のご意見、ご要望を窺い、それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット毎にミーティングを行い意見交換を運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とコミュニケーションが取れており、現場の状況や変化を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については積極的に参加できるように対応している。新規採用者については内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの職員に研修として来て頂き、相互の意見交換によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された際にコミュニケーションを取り本人の想いや希望、不安に思うこと等を傾聴し、当ホームで安心して生活して頂ける様、信頼関係を築くよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際にご家族様の要望や、不安等を傾聴し、入居後も報告、相談をしながらコミュニケーションを取り信頼関係を築ける様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みにこだわらず、他の福祉サービス利用の内容を紹介し対応することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる能力を踏まえ、仕事分担を行い、助け合いながら生活する事ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を報告し、入居者がより良い生活が送れるよう情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人からの問い合わせに対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちな入居者や難聴の入居者に対し、本人の意思を尊重しながらも、他者と関わり合えるように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報提供、相談、支援の要望があれば対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努めている。言葉として言えない事を表情から汲み取り本人の思いに添った支援をするよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には現在のサービス利用の経過、生活環境、生活歴や家族背景等の把握に努めているが、踏み込んだライフスタイルの詳細については、少しずつ会話の中から情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの意思を尊重し自立支援中心にケアできるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネージャー、計画作成担当者を中心に職員とミーティングを行い、家族とも情報交換を行いながらその人らしく毎日過ごせるよう計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務時には個人記録に目を通し、他職員より申し送り事項を聞き、情報収集・交換をしている。また月一回のミーティング時に計画の見直しがないか確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物や外出の支援をしており、特別な外出などは家族にお願いしている。医療機関への受診は家族より要望があれば、介護タクシーを利用して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーまで買物に行ったり、散歩をしてご近所の方に挨拶をしたりしている。町会行事や枝下の行事などにもこれから参加できるようとめていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認し、協力医療機関をかかりつけ医にしている。専門医の受診は、本人・家族の希望を確認し、かかりつけ医に意向を報告し、紹介を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて、各入居者の体調や様子を伝え相談したり、処置をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者から病状の説明を受け情報交換を行っている。又、かかりつけ医より病院主治医に連絡を取ってもらい連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期より家族・かかりつけ医と方針を話し合い今後の体制を整えている。又、できる事・できない事を明確にし、かかりつけ医・家族に相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	非常持出袋(水・食料品etc)を設置し、中身を定期的に点検している。新たにAEDを購入し、救命講習にも順次参加している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時における対応、連絡の手順は明確にされている。一つ一つの具体的な対応マニュアルは書籍「急変時対応マニュアル」にインデックスを使用してわかり易くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関の支援体制は週二回の往診にて確保されている。老人保健施設については、災害等の緊急時の支援体制として確保されているが、日頃からの交流はあまりない。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	1フロア1人夜勤で、施設内で3人体制である。夜間他のフロアと連絡を取り合い、協力し合える体制になっている。又、管理者、責任者に緊急時も連絡し対応できるような体制になっている		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4度、設備点検、避難訓練を実施している。事業内のみで訓練を行なっているため、地域協力は得られていない。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難場所は確保されており、非常時持ち出し袋(食料、飲料水)は備蓄してある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳元で声を掛けたり、話の内容によっては居室で話すようにしている。記録類に関しては十分に管理されている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の選択は基本的に入居者が行っている。レクリエーションはご本人の希望を聞き無理強いはしていない。日々の関わりの中での説明に納得できていない時には、個々にわかり易く説明している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・間食・掃除等は、ご本人の意思を確認し、ご本人のペースに合わせ延食など時間を合わせている。入浴は職員側の都合により3日に1回のローテーションとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望を確認し、施設にて理容している方、馴染みの美容院に行く方がいる。髪型もご本人の希望通りにカットしてもらっている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、配膳、盛り付けなどご本人の力に合わせ職員と一緒にやっている。定期的に出張料理がありいつもと違う雰囲気や料理で楽しみに繋げている		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行っている。問題がある場合は記録に残している。コーヒー等ご本人の好きな物での摂取など工夫している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し行っており、夕食後は義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の関わりの中で、個々の排泄パターンを把握し、尿意のあいまいな方等は声掛けし、トイレでの排泄を促している。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用に関しては、かかりつけ医、看護師に相談し行っている。便秘予防に関しては水分補給の勧め、運動等を行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に1日3人のローテーションにて、入浴支援を行っている。又、入浴拒否があった場合は他の日にしたり、時間をずらしたり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、夜間不眠の様子なら、起床時間をずらすようにしている。また日中も身体を休める必要があれば臥床を促したりしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬事情報はファイルにとじ、内容が分かるようにしている。処方薬に変更があった場合、連絡ノートや申し送り等で職員全員が把握できるようにしている		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々がどのような事を好むのかを本人に聞いたり、探ったりしながら支援を行うように努めている。 例) 針仕事を好む方には雑巾縫いや袋縫い等の作業を勧めている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日などは散歩や買い物に行っている。家族には外出機会を作ってもらえるような相談はしている。苑としては、お花見や外食等の支援も行っている		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物支援の機会を設け、お金を使える場は持てているが、ほとんどの方がお金を自身では所持していない。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員の介助にて電話している。手紙のやり取りを希望される入居者がいれば、対応できる体制である。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花等を常時飾り季節を感じられる空間にしている。西日が差す場合等はカーテンをしたり空調管理には気を遣って心地よく過ごせる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席、和室があり、思い思いに好きな所に座ったり、仲の良い方と話をしておられる。独りになる時は居室にもどっておられる事が多い。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人が昔から使っている馴染みの物を持って来ていただいたり、写真などを飾り心地よく居室で過ごせるようにしている		
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、わかりやすく大きな文字で手づくりの看板を作ったり、多少の段差には声掛けし、見守りしている。一人一人の動作に支障が無く自立した生活ができるよう配慮している。		